

平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析について
伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」を実施しました。

伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】平成31年4月18日（木）

【調査対象学年】小学校6年生 811人 中学校3年生 744人

【調査内容】

1 教科に関する調査

- ・小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語
- ・出題範囲：調査する学年の前学年まで
- ・出題内容：「知識」及び「活用」に関する問題を一体的に出題
- ・出題形式：記述式の問題を一定割合で導入

2 児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 平均正答率

小中学校共に、全国及び神奈川県と比較して、正答数・正答率と大きな差は見られませんでした。

《平成31年度（令和元年度）教科に関する調査の平均正答数と平均正答率（％）（公立小中学校）》

平成31年度 (令和元年度)	小学校				中学校					
	国語		算数		国語		数学		英語	
	(14問)		(14問)		(10問)		(16問)		(21問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
伊勢原市	8.3	59	9.1	65	7.3	73	9.5	60	11.5	55
神奈川県	8.5	61	9.4	67	7.3	73	9.5	59	12.3	59
全国	8.9	63.8	9.3	66.6	7.3	72.8	9.6	59.8	11.8	56.0

※県及び市の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供された。

※中学校英語は、「話すこと」を除いた「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の集計値。

(2) 教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題とが見られました。

～主な特長と課題～

小 学 校	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができる。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
小 学 校	算数	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。 ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること。 ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること。
中 学 校	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの話題や方向を捉えることができ、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる。 ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考え方をもつことができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと。 ・文章の展開に則して情報を整理し、内容を捉えること。
中 学 校	数学	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。 ・簡単な連立方程式を解くことができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
中 学 校	英語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある英語を聞いて必要な情報を理解することができる。 ・語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと。 ・書かれている内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること。 ・日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ること。

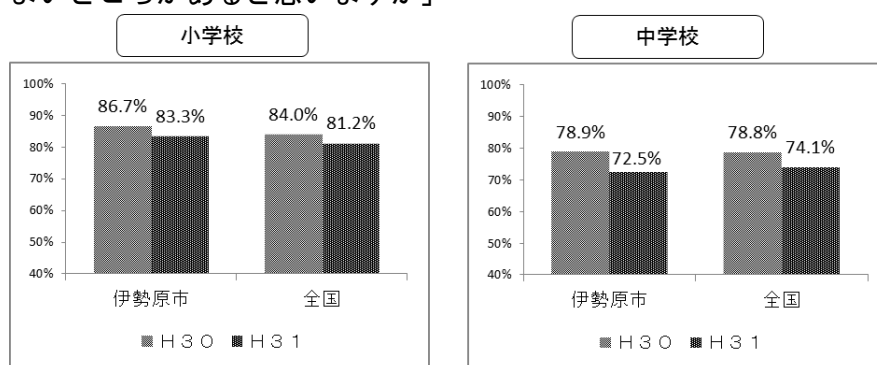
2 児童生徒質問紙調査の結果から

* 各グラフの数値は、質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を示す。

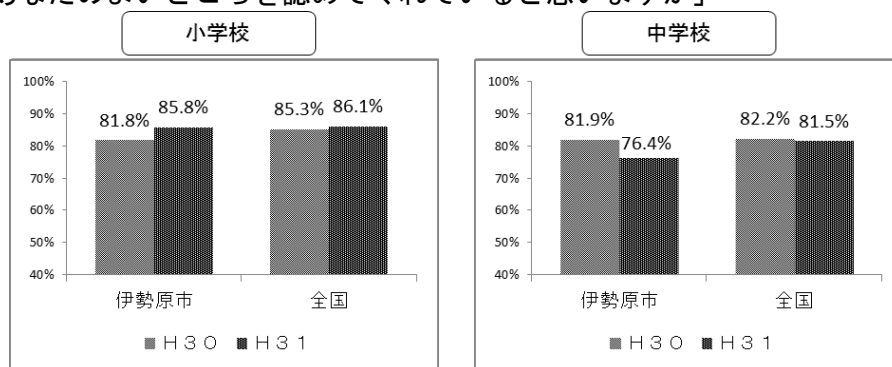
(1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- ・自分にはよいところがあると感じている児童生徒の割合は、全国と比較して大きな差はみられませんでしたが、引き続き、各校での教育活動や道徳教育などさまざまな活動の場面で、一人一人適切な評価に努め、よいところは積極的に褒める等、個に応じた指導に留意する必要があります。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合は、全体的に高い割合を示しているが、引き続き、児童生徒の意識を上げていく必要があります。

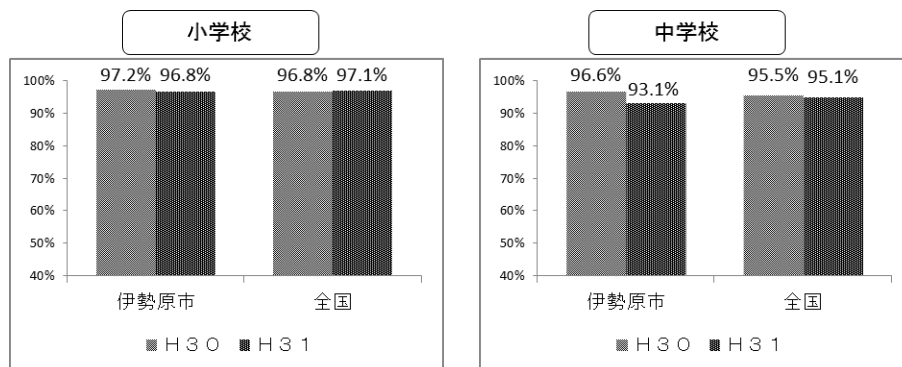
Q「自分には、よいところがあると思いますか」



Q「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」



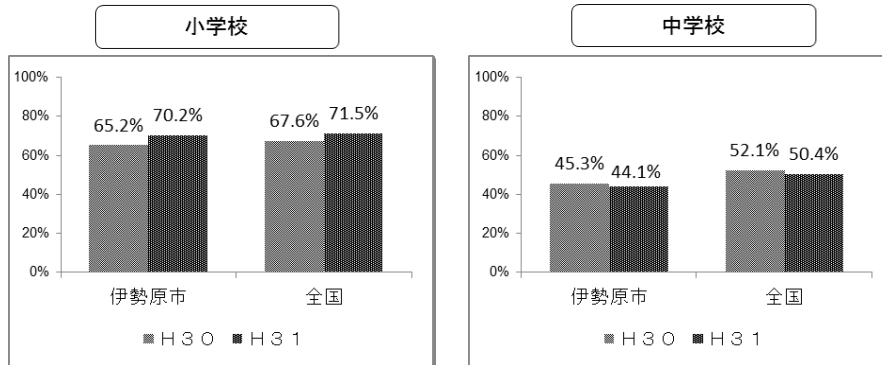
Q「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



(2) 家庭学習に関して

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」と回答している割合は、小学校では全国と比較して大きな差はみられず、中学校では小学校と比べると全国的にもやや低い傾向がありました。引き続き、家庭学習における学習方法等について啓発を図っていく必要があります。また勉強の仕方や自分の学習課題が明確になることで、主体的に学習に取り組めるようになります。学校と家庭が連携をして、学校の学びを家庭へつなげることが大切です。

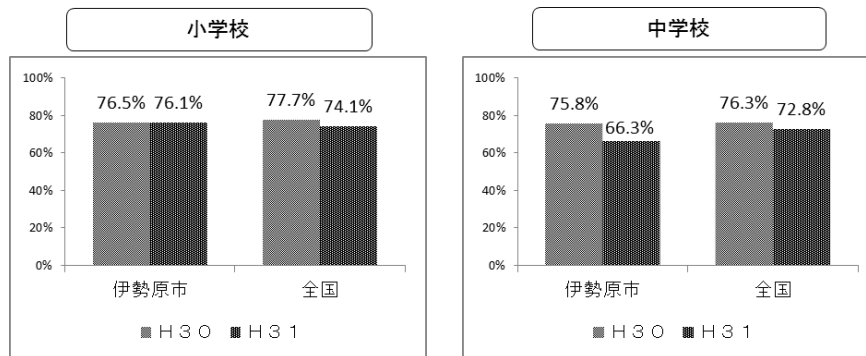
Q「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」



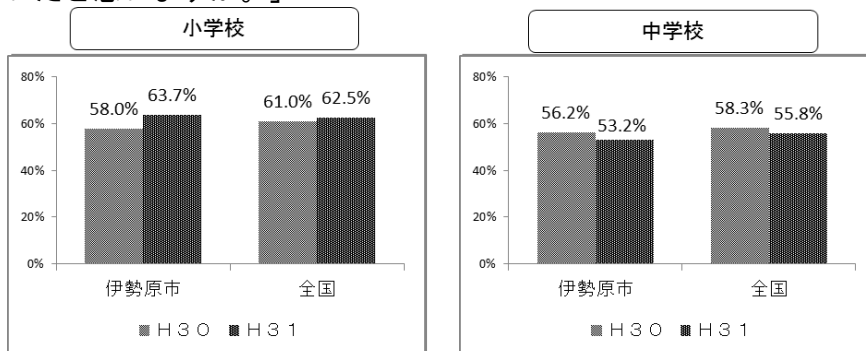
(3) 主体的・対話的で深い学びの視点から

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と感じている割合は、小学校では、全国と比較して大きな差はみられませんでした。
- ・思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語能力の育成に当たって、発達段階に応じた問いを設定するなど指導を工夫していくことが重要であると考えます。

Q「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。」



Q「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」



3 児童生徒質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計結果から

児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高いという傾向が見られました。

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。（小学校）
- ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- ・学校の規則を守っている。（中学校）
- ・家で、自分で計画を立てて学習している。
- ・読書が好きである。
- ・新聞を読んでいる。（小学校）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。（小学校）
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。（中学校・英語）
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示すなど、話や文章の組立てを工夫していた。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。

4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していきたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ・めあて、自分の考え、授業のポイントをノート等にかかせ、授業のめあてが達成できたか、授業で何が分かったか、何ができるようになったか、振り返りを行う。
- ・発問や指示を厳選し、子どもの考える時間（書く時間）・相談する時間・深め合う時間を大切にする。
- ・話し合う活動や自分の考えを発表する取組をさらに充実していくこと。
- ・実生活における事象との関連を図った授業を行う。
- ・言語活動については、各教科、「特別な教科 道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体で取り組むこと。
- ・ICT（情報通信技術）を活用した授業を行うこと。
- ・各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設けること。

【小学校国語】

- ・ 目的や意図、自分の考えを明確にして、話す、聞く、書く、読む。→言語活動を通して力をつける。
- ・ 文や文章の中で正しく漢字や言葉を使うことを通して、言葉の力をつける。

【小学校算数】

- ・ 計算の順序についてのきまりは、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすること。
- ・ 図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすること。

【中学校国語】

- ・ 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫をすること。
- ・ 文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫をすること。

【中学校数学】

- ・ 具体的な場面において、問題解決の方法について見通しを立てたり、求めた数学的な結果を事象に即して解釈したりして数学の問題として捉え、日常生活における問題に対して、数学を活用して解決できるようにすること。
- ・ 比例、反比例の特徴を見だし考察する際に、その比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現することができるようにすること。
- ・ データの分布に着目して、その傾向を読み取って判断することができるようにすること。

【中学校英語】

- ・ 英文を書いた後の言語活動としては、相手に正しく伝わる文章になっているか、生徒自身が読み直して誤りに気づき、修正を加えながら正確さを確かめる活動や生徒同士で書いたものを読み合い内容について質問したりする活動が必要である。
- ・ 教科書のモデル文を参考にし、オリジナルの文を書き換えるような活動を行うことも必要である。

5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- ・ 規則正しい生活習慣を心がけましょう。
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- ・ 家族で、学校や社会での出来事、将来のことなどについて話題にしてみましょう。
- ・ 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。
例) 家庭の中で子どもに役割を与える 子どものがんばりをほめる 等
- ・ ボランティア活動や地域の行事等に一緒に参加しましょう。
例) 市民総ぐるみ大清掃、公民館まつり、総合防災訓練、地区・学区体育祭などへの参加 等
- ・ テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合みましょう。
「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」
「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」
(平成 27 年度伊勢原市中学生からのスローガン)



伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『学びのすすめ』を作成し、学校を通じて家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考) 冊子『学びのすすめ』は伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロードできます。(<http://www.isehara.ed.jp/center/>)